

社会健康医学系専攻

2008.5.9

疫学コア

症例対照研究

・コホート研究 (1)

京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学
中山健夫

今日の目標

1. 観察的な疫学研究の手法である症例対照研究（ケースコントロール研究）とコホート研究の基本とそれぞれの特性を学ぶ。
2. 実例とDVD教材を通じて、研究手法の理解を深める。

疫学のサイクル

第3段階・・・実験疫学(介入研究)
: 疾病発生機序の解明、因果関係の決定
“definite (?)”

第1段階・・・記述疫学
: 横断研究の活用。疫学的現象の記載、疫学的仮説の設定
“Possible”

第2段階・・・分析疫学
: 疫学的仮説の検証、因果関係の推理
“Probable”

コホート研究、
症例対照研究

田中平三. 「疫学入門演習」

疫学の定義（疫学研究の倫理指針）

● 観察研究・・・疫学研究のうち、介入研究以外のもの。

- 分析疫学：コホート研究（追跡研究・縦断研究）、症例対照研究（ケース・コントロール研究）
- 記述疫学：横断研究（断面調査）、生態学的研究（地域相関研究）

どれくらい強く「因果関係」が言えるか？

- 普遍的な因果関係→ 一般化ができるか、どうか？
- 次に同じような状況で判断をする時に、その情報が当てはめられるかどうか？
- 日本人は白・黒、あり・なしの二つに一つにしがち
- 疫学では次の3段階
 - Definite . . . 確からしい（例えて言うなら80%くらいの確からしさ）
 - 介入研究（実験疫学、臨床試験）
 - Probable . . . ありそうだ（1160%くらいの確からしさ）
 - 分析疫学研究（コホート研究、症例対照研究）
 - Possible . . . そうかもしれない（1130%くらいの確からしさ）
 - 記述疫学（横断研究、生態学的研究）

疫学的知見の解釈上の注意点

- 第1段階の「記述疫学」による知見は、因果関係の「可能性 (possibility) = あるかもしれない」にとどまる。
- 第2段階の「分析疫学」に進んで、因果関係の「蓋然性 (probability) = ありそうだ」が検証される。

疫学研究の核心は「蓋然性 (probability)」の検証、しかし・・・

- ・ ・ ・ しかし、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病などの生活習慣病は「多要因疾患」であり機序は複雑。
- 介入研究まで行われて「原因仮説が決定」されても、その要因は確率的な手がかりを与えるものであって、全ての現象を説明するものではない。